

# 海蔵川桜並木を残そう！



桜(ソメイヨシノ)の木の寿命はおよそ60年と言われています。海蔵川の桜の木は40～60歳の老木です。しかしながら、手を加え延命処置をしてあげることによって、寿命は延びるそうです。見事な枝ぶりの桜の木を後世に残す活動が求められています。

## 桜並木の歴史

海蔵川堤防の桜の木は昭和28年頃から海蔵川の近所の人たちにより植えられ始め、昭和34年からは海蔵地区全体で植樹が進められて現在の並木になったようです。

地区では、桜の木を地区の財産として、団体を立ち上げ、継承し、桜の木を守ってきました。

### 「海蔵川堤」桜の由来



海蔵川桜並木は、昭和28年(1953年)頃、海蔵川の改修工事により、取り払われた橋(昭六橋)の鉄材売却資金で植樹がなされ、昭和34年に皇太子殿下の、ご成婚記念植樹を契機に、堤防を桜並木にするために、純粋な愛情と熱意を込め、海蔵地区住民は地区の誇りと地域の有志による「海蔵堤保勝会」が結成され、拡充、運営を行ってきました。

その後、桜の成長とともに、名所として評判になってきたこともあり海蔵川の桜堤を地区の貴重な財産として守り続けようと、平成元年になって地区住民で構成する各種団体が組織化された「海蔵川桜まつり実行委員会」に引き継がれました。

実行委員会では、訪れる人々の楽しい花見を願い、ライトアップ、提灯飾り、幟たてなど準備から保安、維持管理まですべて地域住民全体のボランティアで行われています。

尚、海蔵川左岸の末広橋北～新開橋1.5キロに約500本のソメイヨシノが植樹されています。

平成23年3月吉日 海蔵川桜まつり実行委員会

### 想出の桜



三重県四日市市三ツ谷町の住人、林 時治朗氏

海蔵川の堤に、一輪の日本の花、世界に誇る桜花をと、夢の中に浮かべ、昭和三十一年二月一日、林家の前堤に五本、そめい桜の若木を植へられたのが始めなり。

一輪、二輪と咲く若桜にみいられ、昭和三十四年一月、近隣の友集まりて、追加四十九本を植込まれる。

昭和三十四年三月十二日、林氏宅に、阿倉川町第三区、(現万古町)の住人、白木卯一氏来り、桜に関し色々世間話しに花を咲かす、桜苗木の仕入れ先、単価等。

昭和三十四年三月、白木氏が海蔵堤保勝会なる桜会を結成され、海蔵橋以西の堤に桜苗木を植へられました。現在、四日市市民は勿論、近郷、近在、近県からも桜見物に来られる様になりました。

平成四年四月

林 時治朗氏の日記帳より写す。



根元からポッキリ！



枝打ちしても放置すると・・・



樹木医による診断

樹木医の診断結果より

・寿命による木の腐朽 ・堤防のり面のため木の傾倒 ・枯れ枝の放置 ・剪定後の適正な処理不足の課題に対し、適正な剪定と後処理、木の回りの地面の清掃をして桜の木の延命を図る必要がある。

# 地域みなさんが桜の木を守る活動をしています

枝の剪定



清掃活動



海蔵川堤防の桜は、自治会や社会福祉協議会、その他の地域団体などの人たちが手をかけているからこそ、毎年春に花を咲かせ、素晴らしい桜並木となるのです。しかし、保全活動をしている人たちが固定化、高齢化しており、このままでは活動の継続が危ぶまれます。活動に対しましてご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

あなたも桜の木の保全活動に参加しませんか？

関心をお持ちの方は、海蔵地区市民センター（059-331-3284）までご連絡ください。

平成28年2月  
海蔵川桜まつり実行委員会  
海蔵地区市民センター